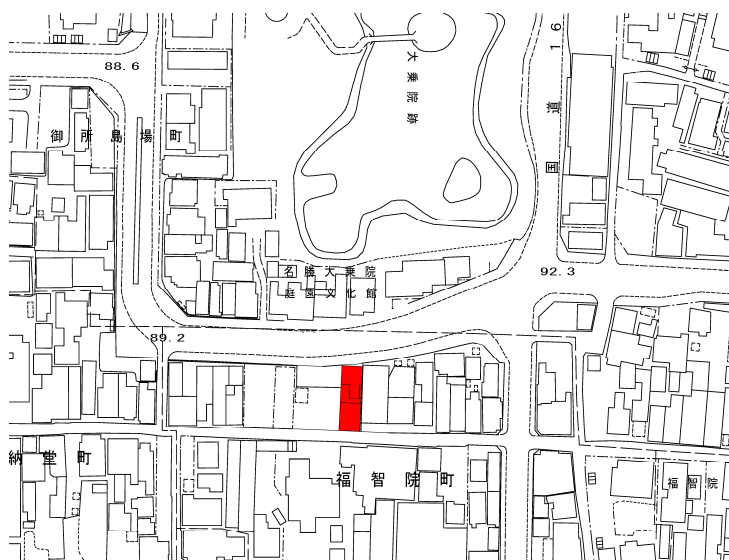


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	44	名称	辻家住宅	
指定年月日	R8.6.19	所在地(指定地)	福智院町9番地1	
指定建造物	主屋	建築年代・概要	明治期	木造平屋建、切妻造、平入、棧瓦葺
指定建造物	離れ	建築年代・概要	昭和28年	木造平屋建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置・歴史	当地は、元興寺から200mほど東にある福智院町に位置する。近隣には名勝の旧大乘院庭園、重要文化財の今西家書院がある。町の北側には平成初めに整備された都市計画道路が通る。 南北に長い敷地には、主屋、渡廊下、離れが建つ。主屋は、形式技法から明治以前の建築とみられる。離れは上棟札から昭和28年（1953）に建てられたことがわかる。渡廊下は離れと一体の建築で、主屋から1間半ほど離れて建つ。登記によると、当家は昭和32年（1957）に辻氏の祖父の所有となった。新聞販売店を営んでいたというが、昭和後期には住宅として使用していたという。その後空き家になっていたが、近年は一部を自転車関係の店舗として使用しており、今後も引き続き自転車関係の店舗として活用される予定である。			
建物特徴・改修履歴	主屋は、東西道路に南面して建つ町家である。表構えは、正面にガラス戸を入れて広く開放とし西端に戸袋をつけ、庇上に西寄り2カ所に虫籠窓を設ける。外壁は、正面は中塗り仕上げで、西妻面を焼杉板張とする。 外観、内部ともたびたび改修されており、当初の姿は判然としないが、痕跡から正面は庇付きで虫籠窓のある外観であったことが判明した。内部は東を通り土間としていたとみられる。 昭和中期頃に屋根窓を2つ設けており、令和8年に撤去するまで当家外観の特徴となっていた。新聞販売店を営んでいた際は表の部屋を土間の店舗としていたというが、昭和50年代頃に応接間に改めた。その時に正面外観も大きく改造しタイルや人造スレートを使用した外観となった。令和8年の改修では、外観を痕跡や類例等を参考に復原整備し、内部は活用のため間仕切等を撤去し広い土間空間とした。 離れは、切妻造の平屋で、北側は拡張された都市計画道路に面する擁壁上に建つ。中庭に面する南側はガラス障子、北側は西からアルミ製面格子付きの腰高窓とガラス障子を入れ、東にアルミ製の雨戸と戸袋を設ける。居室は6畳間と座敷の2室で、前後に縁を設ける。活用のため、今後改修される予定である。 ＜改修履歴＞昭和中期以前の改修の詳細は不明、昭和後期頃：主屋表構え、表側居室等改修 令和8年：主屋外観復原整備・内部改修			
活用	店舗として活用。			
価値	敷地内に主屋、渡廊下、離れを建てる町家の構成をよく残し、所有者や用途を変えつつ引き継がれてきた町家で、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。			

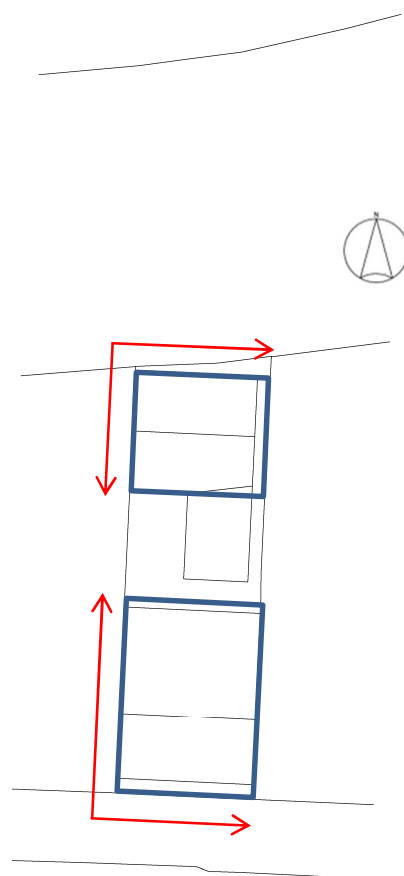


歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図

- 該当建造物
- ↔ 公開範囲



配置図

0 5m